



樹下人物螺鈿碗屏
中国・元～明時代
14～15世紀
根津美術館蔵

企画展

きらきら螺鈿

Museum Collection Exhibition

Radiant Raden

貝の輝く真珠層を文様の形に切り抜き、^は嵌め込んだり貼り付けたりして装飾する技法、螺鈿。^{らでん}「螺」は巻き貝、「鈿」は貝で装飾するという意味を持ちます。貝を用いる工芸品は世界各地にあります。アジア圏では、漆工技法にも取り入れられました。用いられたのは主に夜光貝や^{あわび}鮑貝です。単なる白ではなく、内から放光するかのような青から赤のグラデーションのきらめきを持ちます。その貝と漆独特の美しい艶とが織りなす世界は古来、人々を魅了してきました。

しかし螺鈿について漠然とイメージすることはできても、作例とその歴史、技術をまとめて知る機会を決して多くありません。そこで本展覧会では、根津美術館の所蔵品を中心に、日本における螺鈿の受容と展開を編年的にたどりながら、影響関係にあった中国大陸・朝鮮半島・琉球、そして日本の螺鈿技術が概観できるよう構成しました。

奈良時代、唐から高度な技術が入ってきたことにはじまった日本の螺鈿の歴史。国内で厚貝技法が発達する中、鎌倉時代に入り、新たに中国大陸からもたらされたのは薄貝螺鈿でした。大量に舶載され続けたものの何故か技術的影響は少なく、その技法を取り入れたのは琉球王国です。日本が大きな影響を受けたのは、近世初頭、朝鮮時代(李朝)の螺鈿です。以降、日本の螺鈿は百花繚乱の様相を呈し、現在に至っています。

長い歴史の中で育まれてきた、きらきらの螺鈿の魅力を、本展覧会でご堪能いただきたいと思います。

2021年1月9日(土)～2月14日(日)

日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <http://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM





重要文化財
さくらでんくら
桜螺鈿鞍
1基 木胎漆塗
日本・鎌倉時代 13世紀
国（文化庁保管）

華やかな中世の螺鈿鞍のひとつ。黒漆地に厚めの夜光貝で、満開の山桜が表される。鎌倉時代に極まった精妙細緻な貝の切り透かしが見事。螺鈿鞍は『平治物語』などの軍記物にも登場し、武将の美意識を垣間見ることができる。



じゅかじんぶつらでんけんびょう
樹下人物螺鈿硯屏
1基 木胎漆塗
中国・元～明時代 14～15世紀
根津美術館蔵

古代中国の三聖人かと思われる人物が中央に表される。衣服の精細な模様の切り抜き、見る角度で色鮮やかに光る夜光貝。小品ながら薄貝螺鈿の魅力にあふれた作品である。



ろうかくじんぶつらでんはこ
楼閣人物螺鈿箱
1合 木胎漆塗
中国・元時代 13～14世紀
根津美術館蔵

中国・元時代とする考えが主流ながらも、朝鮮・高麗時代の可能性も示唆されている。高麗螺鈿の遺例が希少な中、注目の作品。



ろうかくじんぶつらでんしよく
楼閣人物螺鈿卓
1基 木胎漆塗
中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵

日本で厚貝による螺鈿が展開する中、中国大陸では薄貝の螺鈿へと技法の転換が起こり、それらは元・明との交易により大量に輸入され珍重された。薄貝螺鈿で埋め尽くされた絢爛豪華な平卓は、元時代の貴重な作例である。



あじさい まきえらでんふぼこ
紫陽花蒔絵螺鈿文箱（部分）
1合 木胎漆塗
日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵

桜の樹皮を貼り、その上に螺鈿と蒔絵で紫陽花が表される。萼の青から紫へと変化する鮑の薄貝の強い発色が、宝石のようにきらめく。



きれじらでん こだんす
裂地螺鈿小箆筒
1基 木胎漆塗
日本・江戸時代 18～19世紀
根津美術館蔵 福島静子氏寄贈

そまだ ざいく
杉田細工と呼ばれる、精緻に切り出した貝や金の薄板を密に置き並べて文様を表す螺鈿技法による作品。富山藩に抱えられた杉田家により伝承された。



からはなからくさまきえらでんせつそうぼこ
唐花唐草蒔絵螺鈿説相箱
1口 木胎漆塗
日本・江戸時代 慶長14年(1609)
根津美術館蔵

朝鮮時代(李朝)の螺鈿は日本に大きな影響を与えた。その特色であるリズムカルな牡丹唐草文が和様化され、蒔絵と融合した作例。

展示室 5

百椿図 — 公家日記のなかの椿

江戸初期の椿ブームを背景に生まれた「百椿図」を、椿好きの公家のエピソードとともにご覧いただけます。



ひやくちんず かのおさんらく
百椿図（部分） 伝 狩野山楽筆
2巻 紙本着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵 茂木克己氏寄贈

49人もの人々が賛を寄せるのも百椿図の特徴。俵屋宗達との合作がある烏丸光広や、本阿弥光悦と親交した阿野実顕ら公家も、和歌賛を書く。

同時開催

展示室 6

点初め — 新年の茶会

「点初め」とは、年が明けて、最初に茶を点てること。新年にふさわしい吉祥の茶道具約20件で、一年の来福を祈ります。



ごほんたちづるちゃわん
御本立鶴茶碗
1口 高麗茶碗
朝鮮・朝鮮時代 17世紀
根津美術館蔵

日本からの注文によって釜山で作られたやきものを「御本」と称する。「御本立鶴」はその代表作で、三代将軍徳川家光が下絵を描いたとされる。

開催概要

展覧会名 企画展「きらきらでん」
螺鈿

日時指定予約制 ご来館前日までに当館ホームページより日時指定入館券をご購入ください。
(根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。)
本展覧会の予約は、2021年1月4日(月)より開始します。

主催 根津美術館

開催期間 2021年1月9日(土)～2月14日(日)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)

休館日 毎週月曜日【ただし1月11日(月・祝)は開館し、翌12日(火)休館】

入館料 一般 1300円(1100円)
学生 1000円(800円)
※()内は障害者手帳等提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、
B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

お問合せ 根津美術館 学芸部広報課 Tel. 03-3400-2536 (代表)
website <http://www.nezu-muse.or.jp>

次回展 企画展「狩野派と土佐派 —幕府・宮廷の絵師たち—」 2021年2月25日(木)～3月31日(水)

周文・土佐派・狩野派など、室町時代から江戸時代にかけて、幕府や宮廷の御用を務めた絵師たちの作品を紹介します。



両帝図屏風(右隻)
狩野探幽筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。